

社会科授業への思考ツール導入に関する研究

—社会科教員志望の学生および社会科教員の関心に注目して—

土肥大次郎(長崎大学大学院), 山口安司(広島大学大学院博士課程前期)

I. 研究の目的, 方法, 特質

近年, 思考・判断の進め方や思考・判断したことを具体的にイメージさせる手段となる「思考ツール」を活用した授業が, 各教科等で積極的に提案されている¹⁾。本研究は, こうした思考ツールの社会科授業への導入について, 社会科教員志望の学生, 大学院生や社会科教員にとっての関心, あるいは困難や課題と考える点などの調査を行い分析し, そのうえで社会科授業への思考ツール導入の展望を示すものである。

平成29年に小学校と中学校の学習指導要領の改訂があり, 「主体的・対話的で深い学び」の実現が目指され, 社会科では「「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力, 判断力, 表現力等」の育成」のいっそうの充実などが目指されている。これらは基本的には, 指導要領の改訂前から長年重視されてきたことだが, 授業の中で主体的に思考・判断できるようにすること, そして思考・判断したことを表現させることは, いずれも容易ではない。

こうした課題に応えるため思考ツールに注目して, 主体的な思考・判断や表現を目指す社会科授業の研究に, 滋賀大学教育学部附属中学校での研究²⁾や草原らの研究³⁾などがある。これらは社会科授業への思考ツール導入を前提とし, その有効性を論じ, 具体的な授業を開発し, 教室での実践まで行っている。こうした先駆的な研究は, 新たな社会科授業の姿を示すものとして価値がある。しかし, 本研究はこうした規範研究ではなく, 実際に授業を開発・実践する立場となる社会科教員志望の学生や現役の社会科教員が, 思考ツール活用についてどう評価するかの調査を中心とする。

社会科授業への思考ツール導入に関して, その有効性を主張する規範研究だけでなく, 授業を開発・実践する側への調査も必要だと考えたのは, 従来の教育内容開発研究への反省からである。社会科教育学ではこれまで, 教育内容開発研究で優れた研究が積み重ねられ, 興味深い授業が数多く提示されてきた。しかし, こうした研究の成果は, 必ずしも学校現場に普及・拡大していない。これは, 学習指導要領や教科書の内容と大きく異なる, 授業の内容や構成等が高度過ぎるなど, 幾つかの原因が考えられるが, トータルで言えば, 一部の研究熱心な教員を除き多くの教員が開発・実践への関心を示さなかったことが大きく影響したと言えよう。新たな授業の在り方が広く普及するかどうかは, 優れた授業であることに加え, 多くの教員がどう考えるかも重要だと考え, 本研究を進めることにした。

具体的には、次のとおりである。①思考ツールを活用した簡易的な社会科授業・学習活動を幾つか開発する。②社会科教員志望の学生（小学校教員志望で社会科授業に強い関心を持つ学生を含む）や社会科教員に、開発した思考ツール活用の授業・活動を提示したり実践したりする。③授業開発の経験が少ない学生については、社会科授業で使用できる思考ツールを作成させる。④学生や教員に対し、思考ツールに関するここまでの経験等にもとづき、授業への導入に関するアンケートを匿名で実施する。⑤学生と教員、それぞれのアンケートでの回答を分析する。⑥アンケートの分析結果を総合して考察し、今後の思考ツール活用への展望を示す。

本研究の特質の第一は、各教科等で注目される「思考ツール」を扱い、社会科授業への導入に関して研究を進めることである。第二は、新たな授業の在り方を示す規範研究とせず、授業を開発・実践する学生や教員に対して、思考ツールを活用した新たな授業の在り方への関心等を調査することである。第三は、学生や教員への調査を、思考ツール活用の具体的な学習計画を提示したり、活動を経験してもらったりしたうえで行うことである。第四は、学生や教員が経験等をするための思考ツール活用の授業・活動を新たに開発することである。

II. 開発した社会科授業での思考ツール活用の授業・活動

開発した思考ツール活用の簡易的な授業・活動は、中学校社会科についての次の「Q1～Q4」にもとづく四つで、実際の思考ツールや学生の回答を次頁に示す。中学校での活動としたのは、普段から中学校教員志望の学生を中心に指導をしていることと、長崎県教育センターの中学校社会科研修講座⁴⁾で講師を務める機会があり、活動の提示・実践およびアンケート実施が可能だったためである。

- Q1. ヨーロッパ州での国家統合についての良い点と問題点、そして興味深いところをそれぞれ考えよう。
- Q2. アフリカ州の発展のために自分ができること、日本の政府などが行うべき支援、世界で協力して行うべき支援、アフリカ諸国自身が行うべきことは何かを、それぞれ考えよう。
- Q3. アジア州が経済成長した理由について、自分が重要だと思うものから順に四つをあげよう。
- Q4. アメリカ合衆国の生産の発展について、20世紀前半と後半以降とを分け、それぞれの時期で発展を支えたものを考え、選択肢から自分が重要だと思うものを四つずつあげよう。

なお、学生については、思考ツールを自ら作成する経験もさせたが、学生が作成したものの一つを右に示す。



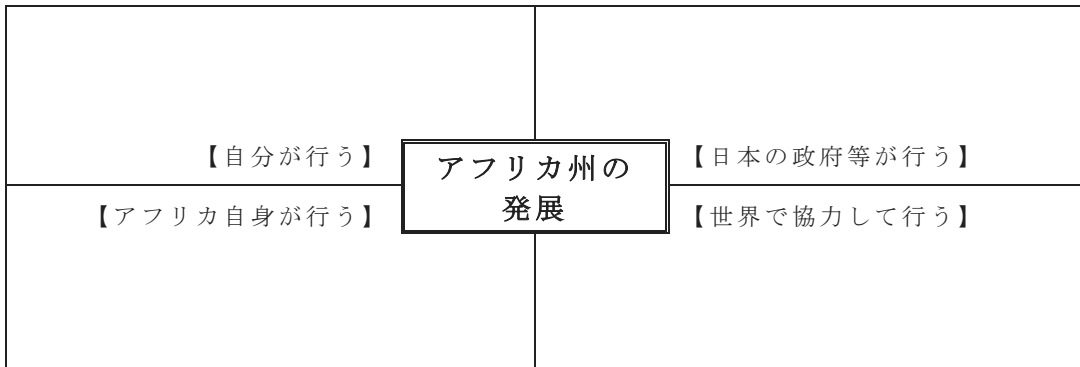
学生作成の思考ツール

Q1 での思考ツール

ヨーロッパ州の国家統合

| 良い点 | 問題点 | 興味深いところ |
|-----|-----|------------------------------|
| | | 例:夫婦と一緒に暮らしながら、それぞれ違う国で働いている |

Q2 での思考ツール

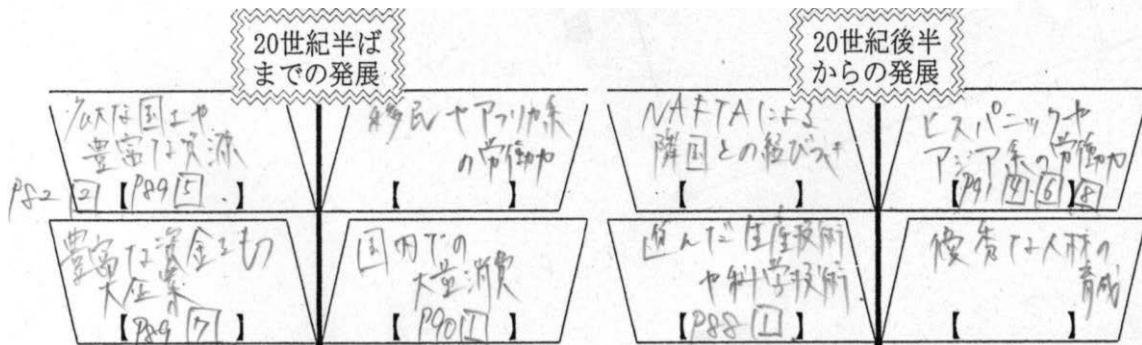


Q3 での3人の学生の回答 (図に示した4つのうち、上位2つを学生がそれぞれ板書)



Q4 での学生の回答

アメリカ合衆国の生産発展の背景



Ⅲ. 思考ツールに対する社会科教員志望の学生の関心等

1. 学生の関心等のデータ

思考ツール活用の活動等をしてアンケートに答えた学生は11人で、このうち大学3～4年生が10人、大学院生が1人である。将来の志望は、中学校と高等学校の社会系教員志望が8人、小学校教員志望で社会科授業に強い関心を持つ学生が3人である。表1にアンケートの内容と学生の回答の結果をまとめたものを示す。

表1 学生（11人）へのアンケートの内容と回答

| アンケートの内容 | 回 答 | | | |
|---|--|---------------|------------------|---------------------|
| (1)これまで「思考ツール」を知っていましたか。 | ・知らなかった ----- 5人 | | ・知っていた ----- 6人 | |
| (2)社会系教科目の授業で思考ツールを用いた学習活動は、どのような資質・能力の育成と特に関係あると思いますか。 ※複数回答可 | ・基礎的・基本的な知識の習得----- 4人 ・基礎的・基本的な技能の習得----- 1人 ・社会的な見方・考え方を働かせた思考力の育成-10人 ・社会的な見方・考え方を働かせた判断力の育成- 7人 ・思考・判断したことを表現する力の育成----- 9人 ・社会づくりに向かう社会参画意識の涵養----- 1人 ・課題を主体的に解決しようとする力の育成----- 3人 | | | |
| (3)社会系教科目の授業における思考ツールの活用は、公民としての資質・能力の育成に、有効な方法になると思いますか。 | そう 思わない | あまりそう 思わない | ややそう 思う | そう思う |
| | 0人 | 1人 | 4人 | 6人 |
| (4)社会系教科目の授業において思考ツールを用いた学習活動に、子どもは積極的に取り組むと思いますか。 | そう 思わない | あまりそう 思わない | ややそう 思う | そう思う |
| | 0人 | 0人 | 7人 | 4人 |
| (5)今後、教員になったら社会系教科目の授業で思考ツールを使用したいですか。 | そう 思わない | あまりそう 思わない | 時々 使用したい | 多くの機会 で 使用したい |
| | 0人 | 0人 | 7人 | 4人 |
| (6)「(5)」でそう回答した理由を記してください。 | ・思考・判断のしやすさや思考・判断の可視化に関する記述 ----- 5人 ・適する時間・内容とそうでない時間・内容があることに関する記述----- 5人 ・多面的・多角的な考察や思考力等が育成できることに関する記述 ----- 3人 その他、知識習得に適する、関心を高める、評価しやすい -----各 1人 | | | |
| (7)思考ツールを用いた社会系教科目の授業を開発する際や教室で実践する際、どのような困難や課題が考えられますか。 | ・教員が思考ツール活用の授業を開発する難しさに関する記述 ----- 5人 ・まとめて思考ツールを使用するまでに十分な理解が必要となる ----- 3人 その他、意欲で個人差が出る、板書やノートに書くことが難しい -----各 2人 自由な思考を妨げる、現代社会を考えることにつながらない -----各 1人 | | | |
| | | | | |
| (8)生徒役として思考ツールを用いた学習活動をして、どのような感想を持ちましたか。 | ・考えやすい等--- 6人 | | ・表現しやすい等----- 4人 | |
| | ・頭がよく働く等- 4人 | | ・正誤あると難しい等- 3人 | |
| | その他、正誤がないのは気が楽、意見交換することが必要 -----各 1人 | | | |

2. 学生の関心等の分析

表1のデータより、次のようなことが言える。

- a. 思考ツールの認知度は半分程度で、それほど広く認知されていない。
- b. 思考ツール活用は、全員が「思考力、判断力、表現力等」の育成に大きく関係するとし、大半はこの中の複数の力の育成に大きく関係するとしている。また、「知識及び技能」の習得や「学びに向かう力、人間性等」の涵養にも大きく関係するとした学生も一定数いる。
- c. 思考ツール活用について、大半は公民としての資質・能力の育成に有効な方法になるとしている。
- d. 全員が、思考ツール活用は積極的な学習活動に結びつくとしている。強くそう考える学生も一定数いるが、そこまで強くは考えていない学生の方が多い。
- e. 主に思考・判断に関わる点から、全員が思考ツールを使用したいとしている。「多くの機会で使用したい」とする学生も一定数いるが、使用に適さない時間・学習内容もあるなどの理由から「時々使用したい」とする学生の方が多い。
- f. 思考ツール活用の授業・学習を開発する難しさを指摘する意見が多い。その他、実践上や子どもの問題、社会科の本質の問題といった難点を指摘している。
- g. 経験した学習活動がいずれも単元のまとめだったため、思考ツールをまとめて使用するものと考えた学生がいた。
- h. 学生は自身の学習活動の経験で、思考・判断や表現のしやすさ、そして能動的な思考・判断を促すことを感じた。また、思考・判断について正誤がある場合とない場合など、活動ごとの違いを感じた学生も多い。

以上より、思考ツールに関して学生の中で認知度はまだそれほど高くないが、社会科授業への導入に関しては、思考力、判断力、表現力等の育成など、公民としての資質・能力の育成に有効で、積極的な学習のためにも基本的にはプラスになると考え、全般に導入には前向きである。非常に積極的な学生も一定数いるが、授業毎での導入のしやすさの違いなどを考え、時々の使用とする学生の方が多い。

導入に向けて学生にとっての大きな課題としては、授業開発の難しさが挙げられる。幾つかの経験から、思考ツールの有用性は感じながらも、思考ツールを活用した具体的な授業を開発していくことには困難を感じる学生が多い。

IV. 思考ツールに対する社会科教員の関心等

1. 教員の関心等のデータ

思考ツール活用の活動等をしてアンケートに答えた中学校社会科教員（特別支援学校の教員を含む）は23人である。アンケートでは、「(1) 思考ツールを用いた学習活動をした感想」、「(2) 社会科授業に思考ツールを導入することに対し、どう考えるか（メリット、課題、総合判断や賛否など）」の二つを提示し、その他形式は指定せずに記述をしてもらった。記述されたものをみていくと、(1)でも生徒の活動を想定したものが多く、(1)と(2)で記述の質に差があまりないものがみられ、また(1)と(2)を区別せずまとめて記述したものもあった。そのため、以下では(1)と(2)を区別せず、記述された内容を分析・分類して提示することとする。

教員（23人）のアンケートに対する回答

| |
|--|
| <p>● 思考ツール導入への関心について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に導入したい--14人 ・条件付きや一部で導入したい--8人 ・導入に消極的--1人 <p>（消極的な記述：「生徒の実態によっては現場で活用することは難しいのかなと感じた。理解が進んでいる，図の読み取りに課題がないなどの生徒に対してであれば導入して良いと思う。」）</p> |
| <p>● 導入に対し肯定的な記述の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えやすい，捉えやすい，考えの整理に有効等-----18人 ・不得意，論述苦手，特別支援学校等の生徒が取り組みやすい等-----7人 ・思考力，判断力，表現力の育成につながる等-----6人 ・生徒が積極的に考えるようになる等-----3人 ・多様な意見を引き出せる，多様な意見を交わすことができる等-----3人 ・授業のまとめで有効-----2人 その他，得意な生徒が考えを深められる，効率が良い，授業の導入で有効-----各1人 |
| <p>● 導入に対し慎重な記述の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による授業開発の難しさ，教員の力量の問題，労力の問題等-----6人 ・提示した思考ツールを確実に捉えさせることの難しさ等-----4人 ・不得意，理解が進んでいない，特別支援学校等の生徒にとって難しい等-----4人 ・活動に時間がかかる，授業時間の確保が必要等-----3人 ・適する時間・内容とそうでない時間・内容がある等-----2人 その他，得意な生徒にとって物足りない，学力テストへの効果の疑問，社会の捉え方が単純になる-----各1人 |

2. 教員の関心等の分析

表1のデータより，次のようなことが言える。

- 大半の教員が，社会科授業への思考ツール導入に前向きで，積極的な導入を考える教員が多いが，それほど積極的でない教員も少なくない。
- 大半の教員が，思考ツール活用を思考・判断や表現と結び付けてプラスに捉えており，思考・判断や表現について，そのしやすさや能力育成，積極的な学習活動などに結びつくとしている。
- 慎重な意見の中では，思考ツール活用の授業を開発する難しさ，そして提示した思考ツールを確実に生徒に捉えさせることの難しさを指摘したものが多い。
- 使用に適さない時間・内容もあるという指摘もみられる。
- 社会科が不得意等の生徒にとって，思考ツール活用の活動は取り組みやすいか難しいかは意見が分かれ，社会科が得意な生徒についても異なる意見がみられる。
- その他，活動に時間がかかる，効率が良いという両意見，あるいは導入に適する，まとめに適するという両意見などがみられる。

アンケートでは学生と教員で異なる問い方をしたが，類似した意見が多くみられた。一方，学生には無かった意見については次の四つの内容に集約できる。一つ目に，比較的多かった意見として，社会科が不得意等の生徒，あるいは得意な生徒に関してで，思考ツール活用への意見は大きく分かれた。二つ目は，数多い意見ではないが，活動に時間がかかる，効率が良いなど授業時数に関わるものである。三つ目は，これも数多くないが，導入あるいはまとめに適するなど授業展

開に関わるものである。四つ目は、授業実践で使用する思考ツールを確実に生徒に捉えさせることの難しさについてである。この点は、研修時に特別支援学校の教員から質問・意見があり、こうした視点からの意見だと考えられる。教員からは、日々接する生徒の姿、日々の授業やカリキュラム等に思いをやり、学生には無い視点からのより具体的な記述がみられた。

学生と教員で占める割合に違いが出たものとしては、一つ目は積極的な思考ツール導入に関してで、教員の方がより積極的である。二つ目は、思考ツール活用の授業を開発することの難しさで、学生の方がより難しさを感じている。三つ目は、思考ツール使用に適さない時間・内容があるなどのことで、これは学生の方が多いが、アンケートでの問い方の違いの影響も大きいだろう。

V. 終結

分析結果を総合すると、社会科授業への思考ツール導入は、授業を開発・実践していく学生や教員にとって、思考・判断や表現に関わる点から、そして積極的な学習活動の点などから概ね肯定的に捉えられている。特に教員は、授業への思考ツール導入に積極的で、今後、思考ツールを活用した授業が普及・拡大する可能性は十分あると言えよう。

思考ツール導入に向けての困難や課題については、授業開発をする教員にとっての困難、多様な子どもに関わる課題、そして授業内容や授業展開、授業時数に関わる課題などが挙げられる。

教員にとっては、思考ツール活用の授業を開発する難しさが大きな課題である。特に授業開発の経験が少ない学生からの不安が大きく、思考ツールを導入した授業は、授業開発で発展的・応用的なレベルとして考えられていると言えよう。

子どもに関わる課題は、学生も教員もリアルな実践をしておらず、また見たこともないため、思考ツール活用が多様な子どもそれぞれに、どのような効果があるか検証・実感できていないことである。多様な子どもそれぞれにとって、どのような授業・活動となるかを実践をもとに考える必要がある。

授業内容や授業展開については、どのような内容のどのような展開で思考ツール活用は有効なのか、これも実践をくり返しながらか検討を続ける必要があるだろう。授業時数に関わる問題も学校現場では重要である。

以上のように、授業を開発・実践する側からは、思考ツール導入への関心は高いが、実際の普及・拡大に向けては、様々な授業案・活動例の提示、教員どうしや教員と研究者との共同研究・授業開発などが必要で、さらに授業・活動の実践にもとづく諸検討、評価、改善なども必要だろう。

本研究では、思考ツール活用の活動等をした学生や教員について、授業への思考ツール導入の関心の高さを確認できたことは大きな成果であった。今後は関心を授業開発や実践に結び付けられるよう、支援・協力等をしたい。

【註】

- 1) 例えば次に各教科等の授業が示されている。田村学・黒田晴夫『考えるってこういうことか！「思考ツール」の授業』小学館，2013年。
- 2) 田村学・黒田晴夫著，滋賀大学教育学部附属中学校編『こうすれば考える力がつく！中学校 思考ツール』小学館，2014年。
- 3) 草原和博ほか「歴史的な見方・考え方の働きはいかに可視化できるのか—思考ツールを用いた歴史導入単元「江戸時代の朝顔ブーム」を手がかりに—」広島大学大学院教育学研究科紀要第二部第66号，2017年。
- 4) 長崎県教育センター「中学校社会科「公民としての資質・能力を育む授業づくり」研修講座」，2018年10月18日。